久慈市民体育館は200人を超える少年剣士であふれかえった

少年剣士の風景 31

撮影　窪田正仁

岩手県 久慈市

久慈市、横沼展望台から見た太平洋

一枚の短冊が招いた 日本一剣士の来訪 少年剣士の目は一様に輝いた

岩手県の北部、海岸沿いにある久慈市は、朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台となった町である。撮影がおこなわれた地域は週末になると交通規制が敷かれるほど観光客が多く訪れている。この久慈市に、8月24日(土)、全日本選手権者である木和田大起選手がやってきた。

久慈市には、日本武道具製造(株)の工場がある。この会社と取引をしている(株)東山堂の木村隆彦社長夫妻が7月に久慈市を訪れた際、山内隆文市長に会い、その場で「木和田選手が使う甲手はこの会社でつくられた物だ」という話題になった。山内市長は「いつの日か木和田選手が久慈の子どもたちに剣道を教えてくれる日がくれば」と木村社長に話をしたという。

その後、木村社長らが久慈駅を通ったところ、駅前に飾られていた七夕の短冊のなかに「剣道が上手くなりたい!」と力強く書かれた1枚を発見した。「この子の夢を叶えてあげよう」と考えた木村社長はさっそく動き始めた。木和田選手は大阪府警での仕事もあって忙しい日々を過ごしているが、8月24日に時間を取ることができた。

主催は久慈市剣道協会だが、久慈市に限らず、広く参加を募ったところ、久慈市とは比較的近い青森県や岩手県内だけでなく、宮城県や福島県からも参加があった。もっとも遠くから来たのは福島県いわき市の団体で、7時間かけて来たという。盛岡市からでも車で2時間はかかる距離だ。結果的に、予定を大きく上回る234名の子どもたちが参加した。

「東日本大震災復興支援教室 木和田大起先生剣道講習会」では、昼までは少年剣士に対する講習会が、午後は高校生以上の剣士約40名が参加して木和田選手と剣を交えた。午前の講習に参加した中学校のなかには、午後、別の会場を使用しての錬成会に参加したチームもあった。

少年剣士に対する講習会は、素振りから始まった。木和田選手は、

「左右を見渡すことができるぐらい振り上げる。大きい振り、大きい足さばき、そして最後のインパクトの瞬間が大切です。自分の目の前で素振りをしている人よりも、遅く振り上げて早く振り下ろすように心がけてください」

などと素振りのポイントについて説明。やや緊張した子どもたちの表情を読み取ったのか、木和田選手が、

「周りの人から『うるさいなあ』と言われるぐらい、大きな声を出しましょう!」

と声をかけて素振りを再開するや、すぐさま大きな声で力いっぱいの振りに変わった。

面を着けてからは切り返しと面打ち、小手打ちなどを、そのつど木和田選手の説明を加えながら行なう。休憩を挟んだ後には中学生のリクエストを受けて、応じ技のポイントを説明した。

地稽古はおよそ1時間。木和田選手が参加者全員と稽古をすることはできない。だからこそ、その経験を得た子どもたちは、その貴重な時間をこれからの剣道に活かさなければならない。

途中、小学生、中学生男子、中学生女子と分かれ、一本勝負が行なわれ、最後まで勝ち残った人には木和田選手の書が入った手ぬぐいが贈られた。講習会の最後に木和田選手は、一流選手が超一流選手になるためになにをしているのか、について子どもたちに話をした。

久慈市は、柔道家・三船久蔵十段が生まれた場所として知られ、東北6県から約800名が集まる大規模な柔道大会が毎年開かれていることもあって昔から〝柔道の町〟として知られる。しかし「今後は弓道やなぎなたも含めて、武道の町にしたいと思っているんです」と山内市長は語る。

久慈市の漁業施設は9割近くが復興し、観光施設も来年には元に戻る見通しだ。しかし、死者・行方不明者6名、約1200戸の家屋が被害を受けるなど312億円の被害を受けており、近くではさらに大きな被害にあった地域もある。

久慈市では約半年間、稽古は再開されなかった。

「3カ月ぐらいしてからでしょうか。『いつ剣道やるの?』と子どもたちから連絡がありました。でも稽古をする場所には物資が積まれていましたので『そこが空いたらやろうね』と。11月ぐらいに稽古ができたときは、誰も欠けることなく集まれたことがなによりうれしかったです」

久慈市で剣道を始め、現在は指導者の立場にある下野ユカリさん(五段)は語る。ここ数年20名程度だった少年剣士がいまでは34名と急増しているそうだ。

会場となった久慈市民体育館

参加者のリクエストに答え、応じ技のポイント説明もあった。講習の後半は木和田選手も面を着けての稽古。貴重な機会を活かそうと、子どもたちは一生懸命に打ち込んでいく

剣道はいつから?
「小学3年生からです」
なぜ始めたの?
「お父さんが剣道をしていて、見に行ったら楽しそうだと思ったので」
剣道をしていて楽しいときは?
「ん〜、友達と稽古ができるところです」
木和田先生と稽古をした感想は?
「すごく上手な先生だなと思いました」

がんばりました

分道羽優(ぶんどうはゆう)さん
久慈市剣道スポーツ少年団
小学校6年生

一本勝負を勝ち抜いた3人に、木和田選手から手ぬぐいのプレゼントが(上)。さらに「俺の心を読めよ〜」と急遽ジャンケン大会も開かれ、最後まで勝ち抜いた一人にも(下)

久慈市内には2つの少年団と3つの中学校に剣道部がある

冨山泰司久慈市剣道協会会長

山内隆文市長は最後まで講習を見守っていた

木村隆彦東山堂社長の行動は早かった